

2215002 阿部 朱里
指導教員 脇坂 圭一

関係を明らかにする。

2. 研究対象と方法

2-1. 本研究の対象の選定方法

本研究の対象事例は静岡県庁による「令和2年度ふじのくに型福祉サービスガイドブック」に記載された共生型福祉施設「指定サービス」全33事例から高齢者・障がい者・子どもが利用対象となる施設の協力頂いた4施設を取り扱う。

2-2. 事例の特徴

対象施設は以下の表で示している（表3）。

全4施設は大きなジャンルとして分けられる。①静岡県庁によるふじのくに型福祉サービスの共生型福祉施設②共生型福祉施設の中でも「指定サービス」と言われ、介護保険法や障がい者総合支援法に基づいて特別養護老人ホームやデイサービス等または児童福祉法に基づいて認可を受けた保育所等が提供する各サービス③施設の利用対象者が高齢者・障がい者・子どもが対象となる施設。

2-3. 研究方法

- ①平面・配置図分析による空間構成の把握及び動線の確認、利用者別エリア配置・接続計画を把握した。
- ②運営者・管理者へのヒアリングによる運営体制の抽出、施設利用実態と自己評価について把握した。
- ③2日間 11:00～15:00 の4時間で行動観察を行い

表3 ふじのくに型福祉サービス「指定サービス」33施設

	地域	開館年	施設名称	高齢者	障がい	子ども
1	南伊豆町	2020年	おっぴいデイサービス	小多機	坂辺B	児発
2	富土市	2010年	有料老人ホーム青空・青空保育園	有老		保育
3	三島市	1989年	共生生活センターあおい・生活介護事業所 ひだまり	デイ	生介	
4	御前崎市	1971年	特別支援課 10号 御前崎十字の園・地域活動支援センター くらっちょ	特養	安セ	
5	御前崎市	2014年	富士岡地域福祉事業所みんなの家・放課後等デイサービスどれみ	小多機	デイ	小多機
6	御前崎市	2008年	労協御前地域福祉事業所つばさ	デイ	生介	
7	鹿野町	2005年	茶畑ヘルズ	介老	共生	
8	伊豆市	2000年	複合型施設 ふらっと月ヶ瀬	デイ	就労B	幼保
9	富士市	2005年	デイサービスセンターはびり・チビコ園ひびり	デイ		保育
10	富士市	2015年	多機能ホーム「結」・つぐみ	小多機		
11	静岡市	2003年	グループホーム高松・ライラック園	GH	生介	
12	静岡市	2003年	複合型デイサービス 喜楽庭	デイ	生介	児発
13	島田市	2012年	でらいと島田・こらいと島田	有老		療養
14	焼津市	2017年	複合型福祉施設 慧とう館	GH	保育	
15	焼津市	2005年	コミュニティホーム長者の森・もりのくまさん保育園	有老	保育	
16	焼津市	2006年	せいわいデイサービス・どんぐり保育園	デイ		保育
17	焼津市	2018年	複合型サービスこんべえ	小多機	保育	
18	藤枝市	2015年	社会福祉法人ハルモニエ	通園		療養
19	藤枝市	2006年	せいわいデイサービス・どんぐり保育園	デイ		保育
20	牧之原市	2006年	まるにデイサービス・mamaは	デイ		保育
21	磐田市	2012年	中泉の里・中泉保育園	特養	保育	
22	磐田市	2012年	白寿園・なないろ保育園	特養	療養	保育
23	浜松市	2010年	みんなおいで	デイ		託児所
24	浜松市	2009年	なごみ	老退		幼保
25	浜松市	2015年	城北の家・ちやるかりいお	老退		児発
26	浜松市	2014年	浜松中央長上苑	老退		幼保
27	浜松市	2006年	和合せいれの里・聖睦めぐみ保育園	特養	生介	保育
28	浜松市	1996年	やまびこデイサービスセンター	デイ	共助	幼保
29	浜松市	2014年	浜田愛光園・聖睦チャレンジ工房浜北	老退	坂辺B	
30	浜松市	2011年	きじの里・峰栄会共同生活ホーム	特養	共助	幼保
31	浜松市	1994年	さぎの宮裏・峰栄会共同生活ホーム	特養	共助	幼保
32	浜松市	1996年	あそびヶ丘ホーム	小多機		託児所
33	浜西市	2008年	一四荘・一四荘託児所	小多機		保育

A Study on the spatial composition and actual status of users in Fujinokuni-type welfare services

Akari Abe

滞在場所と活動・交流の定量化を実施した。これにより、空間特性と運営体制、利用実態との対応関係を多角的に検討した。

3. 共生型福祉施設における立地特性および配置計画、平面計画の把握

配置計画は多棟分離型（独立性・拡張性）と単棟集約型（土地・管理効率、ただし柔軟性制約）に整理され、平面は高齢者・障がい者・子どもに共通区分、空間形式は廊下接続型／オープンスペース連続型が動線・交流に影響していた。以上より、空間構成は1) 立地条件 2) 建築形態 3) 平面構成の三軸で特徴づけられることを明らかにした（図 3-3）。

4. 利用者の活動実態と交流を促す空間特性

4-1. 一日の流れの整理

行動観察に基づき一日の流れを整理し、利用者の滞在と移動の時間的推移を把握した（図 4-1）。

4-2. 利用者属性別の滞在場所の比較

高齢者は居室や食堂に滞在が集中し移動が少ない一方、子どもは遊戯室や園庭を頻繁に移動し多様な活動を展開していた（図 4-2）。

4-3. 施設の室別活動分析

室別活動を分析し、食堂や多目的室など開放的空間が交流を誘発する一方、廊下や個室は活動が限定

的であることが明らかとなった（図 4-3）。

4-4. 交流を促す空間特性

主要動線での相互視認性と、パブリック-セミパブリック-プライベートの段階的開放が、偶発的接触と多様な関与を生み、高齢者と障がい者の自然な混在、ノード滞在・属性横断会話の増加に寄与することを示した。

5. 結果 3- 運営体制と運営者・管理者の施設評価

5-1. 運営体制

運営体制を整理した。社会福祉法人は安定基盤と専門職員により体系的運営を行い、NPO 法人は住民やボランティア参画を強みに柔軟な活動を展開していた。いずれも地域共生と多世代交流を理念とし、地域連携を重視していた（図 4-1）。

5-2. 運営者・管理者による施設評価

4 施設の管理者ヒアリングを整理した。多棟分離型は機能独立性や管理効率が評価される一方、交流には意図的工夫が必要とされた。単棟集約型は管理効率に優れるが、廊下が交流空間として十分機能しない点が課題であった。オープンスペース接続型や NPO 運営施設では、柔軟な運営により偶発的交流が生まれるが、人材確保や財政制約に課題が残ることが明らかとなった（図 4-2）。



図 4-1_ おつけい

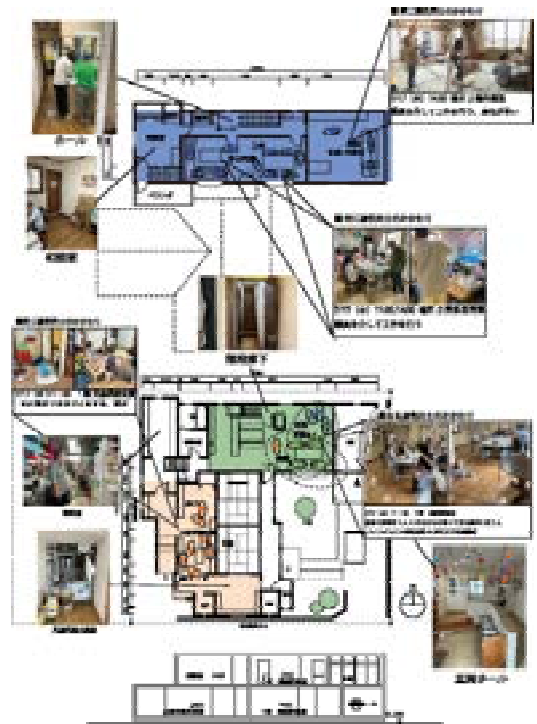


図 4-2_ 喜楽庭



図 3-1_ 配置計画、平面計画の把握

項目	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設概要	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
運営体制	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設評価	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設評価	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設評価	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設評価	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設評価	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設評価	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設評価	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）
施設評価	社会福祉法人（社会福祉法人）	NPO 法人（NPO 法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）	社会福祉法人（社会福祉法人）

表 5-1_ 運営者・管理者による施設評価

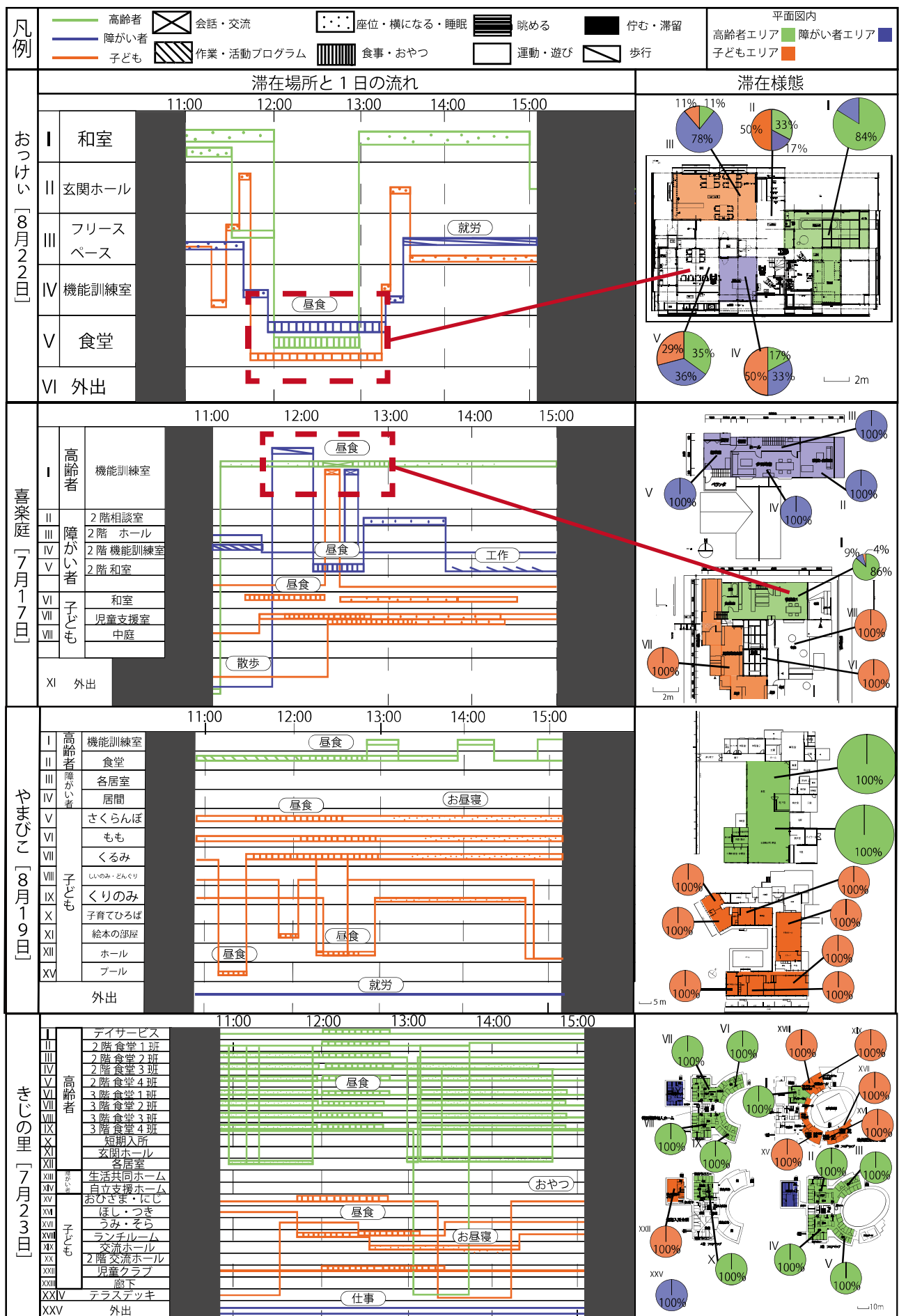


図 5-1_ 利用者属性ごとの滞在場所の変化と一日の流れ

6. これからの共生型福祉施設が目指すべき施設像

6-1. 立地特性・平面構成と利用実態の関係

多棟分離型・廊下接続型に分類される施設（やまびこ本体、きじの里、喜楽庭）では、機能独立性や管理効率に優れる一方、交流は廊下動線に依存し、自然発生的な交流は限定的であった。行動観察の結果からも、高齢者は居室や食堂に滞在が集中し、活動が固定的となる傾向が明らかとなった。

これに対し、オープンスペース連続型の施設（おっけい、やまびこデイサービス）では、多目的室や園庭を拠点として利用者の移動が活発に展開され、偶発的交流が多く観察された。特に子どもは多様な活動を行い、その結果として高齢者との交差や世代間交流が誘発される傾向が確認された。

表 6-1. 立地特性・平面構成と利用実態の関係

空間構成の型	施設	滞在行動	交流様態
多棟分離型 × 廊下接続型	やまびこ こども園	固定的（高齢者中心）	限定的（廊下では交流弱い）
多棟分離型 × オープンスペース型	やまびこ デイサービス	流動的（共用空間活用）	偶発的交流あり
単棟集約型 × 廊下接続型	きじの里・喜楽庭	固定的（高齢者中心）	限定的（廊下は通過動線）
単棟集約型 × オープンスペース型	おっけい	流動的（多世代交流活発）	偶発的交流活発

6-2. 空間利用実態と運営者評価の対応関係

社会福祉法人運営施設においては、安定した財政基盤と専門職員の配置により管理効率が高く維持されていたが、観察結果と同様に、運営者自身も「交流が限定的である」との課題を指摘していた。

一方、NPO 法人が運営する施設（喜楽庭・おっけい）では、地域住民やボランティアを巻き込んだ柔軟な活動展開が行われ、偶発的な交流が豊富に確認された。しかし同時に、運営者からは「人材確保や財政的持続性の不安」といった課題も示されていた。

このように、法人施設では安定性を強みに管理効率が高く保たれる一方で交流が限定的であり、NPO 施設では柔軟性を強みに交流が多く生じるものの、持続性に課題を抱えていることが明らかとなった。

表 6-2. 空間利用実態と運営者評価の対応関係

施設	利用実態・交流特性	運営者評価
やまびこ こども園	滞在固定的・交流限定的	法人：管理効率が高いが交流弱い
やまびこ デイサービス	交流多い・偶発的	法人＋地域開放：安定運営・交流豊富
きじの里	滞在固定的・交流限定的	法人：管理効率が高いが交流弱い
喜楽庭	滞在固定的・交流限定的	NPO：柔軟運営だが効率低い・人材不足
おっけい	流動的・交流多い	NPO：柔軟運営・交流促進、持続性課題

6-3. 「ふじのくに型福祉サービス」が目指すべき施設像

今後の共生型福祉施設には、1) 多目的室やオープンスペースの導入による空間の開放性、2) 高齢者の固定的滞在と子どもの流動的活動を結ぶ空間的工夫、3) 社会福祉法人の安定性と NPO の柔軟性を統合したハイブリッド運営、4) 地域住民・外部機関との協働による開かれた拠点化が求められる。以上を総合し、「ふじのくに型福祉サービス」の目指すべき施設像を、開放性と行動特性への対応、安定性と柔軟性を併せ持つ運営体制、地域に根ざした拠点性を

備えた総合モデルと結論づける。

7. 研究の総括と課題

7-1. 研究の成果

本研究は、静岡県内の「ふじのくに型」共生型福祉施設を対象に、立地・空間構成・運営体制・利用者行動を多角的に分析した。郊外立地が多く、空間は多棟分離型／単棟集約型、廊下接続型／オープンスペース連続型に分類された。運営面では、社会福祉法人は安定性・効率に優れる一方で交流が限定的、NPO は柔軟・地域参画に強いが持続性が課題と判明した。行動観察では、高齢者は居室・食堂中心に固定的、子どもは移動が多く多様で、特にオープンスペース連続型で偶発的交流が活発化した。以上より、今後は空間の開放性と行動特性への対応、安定性と柔軟性を両立するハイブリッド運営、地域に開かれた拠点性の確立が求められる。

7-2. 今後の研究課題と展望

本研究は 4 施設・短期観察に限定される点が限界である。今後は対象拡大と長期追跡を行い、交流の質的評価や利用者満足度の把握を進めるとともに、安定性と柔軟性を両立し地域と協働する持続可能な運営モデルの構築を検討する。

参考文献

- 文 1) 児玉桂子，介護施設の環境と高齢者・介護者の心理的ダイナミクス，日本社会事業大学，ストレス科学研究 2011
文 2) 山田あすか，医療・福祉施設における利用者本位の建築計画に関する一連の研究，東京電機大学准教授，日本建築学会賞 2018
文 3) 井上由起子，三浦研，居住福祉型特別養護老人ホームにおけるケアと空間の在り方に関する研究，厚生労働科学研究費 補助金・長寿総合科学研究事業 国立保健医療科学院施設科学部、京都大学大学院工学研究科 2004
文 4) 藤井容子，若林清彦，高齢者や障がい者が共に暮らす共生型グループホームの実践的研究—新たな福祉施設・地域福祉システムの形成に向けて—，住総研 研究論文集 No. 42, 2015
文 5) LIYUAN, 清水郁郎，多世代共生福祉施設における交流様態の研究—二つの共生施設の事例を対象とした調査手法の研究，日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）2023
文 6) 山崎有香，生田京子，共生型福祉施設における建築形態と利用者交流について（愛知県の場合），日本建築学会東海支部研究報告書第 56 号 2018
文 7) 関美奈子，竹宮健司，地域との共生を目指す児童福祉施設の設計手法に関する研究—二井清治建築研究所の設計事例を対象として—日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）2021
文 8) 笠川睦，「ごちゃまぜ」を実現する複合型福祉施設群の設計手法とその位置づけの報告，日本建築学会大会学術講演梗概集 2020
文 9) 山腰真也，山田あすか，共生型ケア事業所における利用者の生活様態と空間構成に関する研究（その 1），日本建築学会計画系論文集 第 90 巻，2025

注釈

- 注 1) 年齢や障害の有無にかかわらず、乳幼児から高齢者まで利用者属性を単一に限定しないデイサービス。
注 2) 年齢や障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるような“垣根のない福祉”をコンセプトにした、県が市町・団体・事業所等と協働して推進している福祉サービスの理念。
注 3) 障害福祉サービスを利用していた障害者が、介護保険が適応になる 65 歳を迎えた際に、必要な基準を満たした介護保険事業所または、今まで通っていた障害福祉事業所のどちらかを選択し、サービスが受けられる制度。